

第2回 第3次日野市立図書館基本計画策定委員会

日時……平成29年9月16日（土）10：00～

場所……中央図書館

出席者…委員9名（戸崎 大矢 小形 石川 小林 山口 田代 金子 飯倉）、
事務局4名、オブザーバー（榎ぎょうせい2名）

配布資料確認

- ・資料1：第3次日野市立図書館基本計画策定に向けた課題のまとめ（案）
- ・資料2：基本理念（案）
- ・資料3：移動図書館ひまわり号利用者アンケート結果

○事務局：資料1～3について説明。

1. 議題

（1）計画策定に向けた課題のまとめについて

【利用者アンケートの概要について】

- ・「駐車場の充実」という意見について、土日のいい時間は満車の事が多い。嫌になって利用しない人もいるのではないかな。遠い地区の人にとっては重要。
- ・「パソコン関係に強い図書館を作ってほしい」という意見について、情報型の分館を作る等、尖がった部分を作った方が今後も生き残っていけるのではないかな。
- ・スマートフォンで予約をよく利用するが、スマホ用の画面がない為、画面が小さい。若い層に向けては、SNS等でPRする方法もあるのではないかな。
- ・インターネットから予約できるようになってから予約数は非常に増えており、スマートフォンの利用が多いと思われる。インターネット環境は、次のシステムで改善したい。
- ・トイレの老朽化やおむつ台の設置、ソファの汚れに関する意見も見られる。本の充実もちろん大事だが、設備の改善も進めてほしい。
- ・意見の多かった駅ポストについて、すそ野を広げるためには、返却の場があるだけでも違う。特に仕事している人は、返せないことで利用しないという人もいるのではないかな。すぐは無理でも検討してほしい。

【市民ワークショップでの主な意見・提案について】

- ・「日本一の図書館として・・・」とは、どういった経緯で出された意見か。⇒（日本の公共図書館の先駆けとしての歴史を大切にしてほしいという意見だったように記憶している。）
- ・かつての以前の移動図書館の利用は非常に多く、移動図書館が来ると子どもが大勢集まってきた。日野市の図書館の歴史の中で、移動図書館からサービスを始めるという大きな歴史である。東京都の振興策と多摩地域の図書館が増えることで、図書館の役割が広がっていったが、日野市が先駆けとなっていた。「日本一」というのは、利用人数だけではなく、日本の図書館の歴史を変えてきたという日野市の図書館のあり方を示している。

- ・誇るものがあるのであれば、基本理念に書き込んだ方が良い。
- ・小学生くらいの年代には借りた本に感想や評価を付ける等、図書館と借り手側のかかわりがあってもよいのではないか。ただ借りるだけではない表現があるのではないか。他の自治体が真似できない取り組みを行ってほしい。
- ・学校図書館との連携強化について、司書教諭を専任している先生は少なく、学校図書館に手が回っていない。市政協力員も、本の分類等の知識は自主的に覚えているのが現状であり、学校図書館へのサポートの必要性を感じている。市立図書館には、学校図書館への本の提供だけでなく、悩みを聞いてくれたり、専門的な知識の支援をできる体制を整えてほしい。
- ・学校図書館へのサポートは、周辺自治体と同じ状況であれば、連携、情報交換していくことも大事ではないか。

【統計の数値から見た現況について】

- ・団体の貸出数が増加しているとあるが、どのような団体が増えているのか。団体数が増えたから、団体貸出も増加しているのか。⇒（主に学童クラブ、保育園、幼稚園、児童館。病院も1か所回っている。全部で52団体。51箇所が児童関係。団体数の増加ではなく、子ども読書推進計画に基づき、幼稚園、保育園にも積極的にアプローチしている成果と考える。）
- ・子どもの利用につながるものなので、団体利用が増加している要因を分析してはどうか。

【移動図書館ひまわり号利用者アンケートについて】

- ・ひまわり号がすばらしいことを再認識したが、ホームページではひまわり号は歴史のカテゴリーに入っている。最初のページを開くと歴代のひまわり号の情報があり、利用案内は2枚目となっているのはもったいないのではないか。⇒（ホームページの更新は早急に取り組みたい。）

【日野市立図書館の課題について】

- ・「各分館の地域特性を活かした取り組みの充実」について、蔵書については、日野市立図書館としての核を共通に持ちながら、分館の特色を生かした1割の工夫が必要ではないか。
→知識がない人には1割の違いがわからない。何が違うかをはっきり出してほしい。
- ・分館ごとに何が特色か、一概にいけない部分もあるのではないかと心配している。PRを進める上では、一貫性が必要。
- ・現状特徴がないのが課題であって、特徴化を進めるというのも対策の一つ。
- ・地域の違いによって、必然的に特徴は出ている。図書館が無理やりつくるのではなく、それを拾い上げていくものである。
- ・各館を回ってみて、企画の違いが一番わかりやすかった。独自に展示しているものだけでも、十分な特色なのではないか。多摩平は若い方向けの蔵書が多い等、案内を出すだけでも違う。
- ・「専門知識を持ち、地域に関わっていく職員の育成」とあるが、その他の課題についても、職員の関心が根底として必要だと思う。現段階で、地域に関わっていくために、職員への働きかけや取り組みを行っているのか。また、次の取り組みのイメージがあれば知りたい。⇒（カウンターで待つだけでなく、意識的に地域と関わる必要があると考えている。各分館がどのように地域と関わっていくかについて職員によるワークショップを実施する等、計画策定段階から、少しずつ積み重ねていきたい。）

- ・小学校低学年に移動図書館ひまわり号を見せたり、地域の資料の紹介や、パンフレットを学校単位に配布する等、子どもに対するやり方も様々あるのではないかな。
- ・おはなし会などの子ども向けのイベントは充実しているが、小学生は6時間目があると、16時のお話会に間に合わない。少し時間をずらすだけでも、参加できる。
- ・予算も限りがあり、現状の業務もある中、職員にすべてをゆだねるのではなく、高齢者の生きがい、働きがいになるようなサポーター制度を導入する方が、図書館のファンも増え、居場所も増えるのではないかな。
- ・公民館の取り組みともっと連携したほうがよい。市の他の施設の情報や利用案内も積極的に情報発信してほしい。
- ・図書館がすべて単独で実施する必要はない。地域で様々な活動をしている方がいるので、地域の要望を聞くために入っていく。
- ・図書館から発信するだけでなく、市民が持ち込んでくるような関係を作るためにも、日頃から図書館が要望を聞く姿勢があるとよい。
- ・「図書館の設備・環境、運営の充実」の文言について、「利用者ごとのニーズにあった～」と一括りにするのは今の時代は難しいのではないかな。「一人ひとりのニーズにあった～」というほうが、時代にあうのではないかな。

(2) 計画の基本理念について

- ・“場”として、“ひろば”としての図書館が求められているという結論には賛同するが、誇るものがあれば、もう少しアピールがあった方がよい。
- ・「本と出あう、人と出あう」に変更してはどうか。並列にして、多様性をもたせてもよいのではないかな。
- ・本があるというのが図書館の大きな特色なので、「本と出あい、人と出あう」にこだわりたい。
- ・これまでの歴史で、先駆けとして行ってきたことは入れてほしい。
- ・イラストについて、地域・人・本が分断されているように見える。
- ・まちの“拠点”だけでなく、移動図書館などの役割も含めて“開かれた”というニュアンスが必要ではないかな。
- ・開かれた要素が見えるよう検討してほしい。
- ・内・外の概念ではなく、もう開かれていて扉はない。暮らしとの融合等、混ざり合う感じのほうが合うのではないかな。
- ・「知のひろばが地域の文化を創る」とあるが、これまでの話からは一から新しく創るのではなく、「広げる」「つなげる」の方が合うのではないかな。
- ・文化が変わる中で、再創造も含め、必ず創る要素はある。
- ・新しい価値が生まれる、創られる要素があってもよいと思う。

委員長からのまとめ

- ・キーワードはたくさん出た。再検討してほしい。「開かれた」「創る」といったイメージや、具体的な設備の改善について等様々な意見が出たが、奉仕の基本に関わるキーワードや要素を入れてほしい。

(3) 今後の日程

- ・ 基本理念は事前送付する予定。次回 10 月 29 日（日）10 時～。

以上